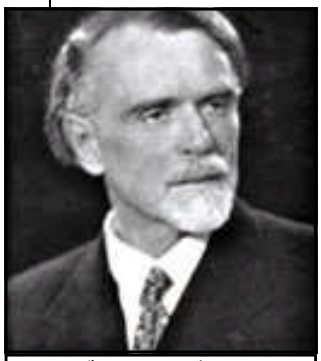
隠国 KOMORIKU 通信 Vol. 1
The Letters From K.Kayamori in KOMORIKU.

「マジャールの歌、マジャールの響き」に寄せて

マジャールとはハンガリーのこと。彼らは自分たちのことをマジャールと呼ぶ。

ハンガリー音楽と言えば、ブラームスがかいた「ハンガリー舞曲」が大ヒットして、あれが代表的なハンガリーの音楽だと思われがちだが、ヨーロッパ各地に居住しているロマ（ジプシー）の音楽であり、ハンガリー（マジャール）の人たちの音楽ではない。

ハンガリーの作曲家と言えば、なんと言っても、名ピアニストでもあったフランツ・リストが挙げられる。リスト自身もハンガリーで生まれ、自分の出身はハンガリーと言ってはいたものの、ドイツ系ハンガリー人で、母語はドイツ語であり、ハンガリー語は全く話せなかったとされる。活動もドイツ、オーストリア、フランスであり、作風もドイツロマン派に属し、国民楽派でハンガリーの音楽とは言いがたい。しかしながら、ハンガリーの英雄であることは間違いない。ハンガリーの中心的な音楽教育機関は彼の名を冠して「リスト音楽院」であり、後述するコダーイは、彼の合唱作品の金字塔とも言える「リスト・フレンツ頌に捧ぐ」をかいているほどなのだ。それでは、ハンガリー音楽とはどのようなものなのか？


コダーイ・ゾルタン

コダーイはブダペスト大学で学びながら、同時にリスト音楽院で学び、ハンガリーの村々をまわって民謡や踊りを採集して多くの論文を書いた。本当のハンガリーの音楽、マジャールの音楽を追い求めて。この頃、ひとつ違いの僚友バルトーク・ベラを出会い、手ほどきをして2人はハンガリーの村々をまわったのである。そして、民謡や踊りをベースとした作品を発表していった。20世紀に入ってひとつの流れとしてできてきた「民族主義音楽」にコダーイが与えた影響は計り知れない。例えば、戦後日本音楽界においては、間宮芳生、林光、外山雄三が「山羊の会」をつくって活動をするが、彼らの作品は日本固有の音をベースにしたものが多く、日本のオーケストラが会議公演の際のアンコールピースとしてよく演奏される「管弦楽のためのラプソディ」（外山雄三作曲）はよく知られた代表的な作品と言える。幸いなことに、これら3人の作曲家は多くの合唱作品をかいており、間宮の「合唱ためのコンポジション」などはその代表と言えるだろう。

バルトークとコダーイは、ハンガリー（マジャール）音楽を発掘し、作曲の基礎としていった。バルトークは、マジャール音楽の語法を再生産して、新古典技法の中で発展させ、20世紀音楽に絶大な影響を残したと言っていいだろう。現代音楽のスペシャリスト、初演魔として知られた指揮者の岩城宏之をして、「20世紀を代表する作曲家3人はバルトーク、メシアン、武満徹」と言わしめるほどの存在である。

では、コダーイはというと、あくまで穏健な様式にとどまり、第２次大戦中も祖国を捨てなかった。音楽教育において「コダーイシステム」を確立した。コダーイに続くハンガリーの音楽家は全て彼の音楽理論の申し子であると言っても過言ではない。コダーイは組曲「ハーリヤーノシュ」などの管弦楽曲や器楽曲においても有名であるが、多くの合唱曲を残し、教育作品においての功績でも高い評価を受けている。

合唱が盛んな国というと、イギリス、北欧の国々、特にリトアニア等があげられるが、ハンガリーもとても合唱が盛んな国である。（ちなみに、日本も合唱が盛んな国のひとつで、演奏技術が高いことで知られている。）コダーイに続いて、ハンガリーにおいて多くの作曲家が合唱作品に心血を注いできた。バールドシュ、オルバーン、コチャールは言うに及ばず、リゲティという現代音楽（コンテンポラリー）の作曲家であっても、「Lux eterna」など多くの合唱作品をかいている。ボクも若い頃「パーパイネ」という前衛的な曲をやったことがあるが、彼の書法であるクラスターが随所に出てくるものの、主旋律はマジャールの民謡を感じさせるものであった。

バールドシュ・ラヨシュ

バールドシュはコダーイとは1世代ほど下となる。

コチャールはまだご存命だ。コチャールはバールドシュからおよそ1世代下となる。

マジャールの歌を歌う時、マジャール語が大きなポイントとなる。マジャール語はヨーロッパ語族ではなく、ウラル山脈の麓中央アジアあたりを起源とするウラル語族フィン・ウゴル語派に属する。明らかにヨーロッパの他の言葉とは異なる。ハンガリーという国はマジャール人が9世紀にウラル山脈からハンガリー平原に移住してきたことを起源とし、1000年にキリスト教に改宗して、ヨーロッパの一員としてハンガリー王国を建国する。一般的にマジャール語は難しい言葉と言われる。長母音と短母音のニュアンスなど・・・。しかし、言葉と音楽とは密接に関係しており、というより、音楽は言葉そのものとも言える。

日本との共通点もある。氏名は日本と同様姓が先で名前が後ろに来る。また各地に温泉が湧き出ており、公衆浴場が古くから建設・利用されてきた。

マジャールの音楽にはどこか土の匂いやアジア的な何かを感じるし、素朴である。一方、言葉の持つ独特のリズムで聴くものの心は高揚していくのだ。

◆ご感想などは hane2883@gmail.com まで